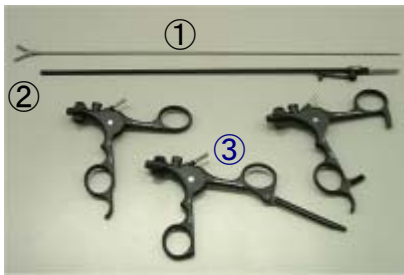


KARL STORZ **CLICKline™** 器具の脱着と作動チェックの方法

このマニュアルは、**CLICKline™** 器具の組立・分解方法と作動チェック方法を掲載した**簡易マニュアル**です。

安全に、ご使用いただくために、本マニュアルを常に傍に置いて、ご活用下さい。また、商品の添付文書を含め、洗浄・滅菌方法など更に詳しいメンテナンスマニュアルを別途ご用意いたしております。併せてご熟読頂きご活用下さい。



【基本構成】

5 mm・10 mm 径の **CLICKline™** 器具は以下の3点で構成されています。

①インサート ②アウターチューブ ③ハンドル

構成品にはそれぞれサイズ・用途別に多くのバリエーションがあります。

いずれも互換性があり、目的にあわせて組み合わせてご使用いただけます。

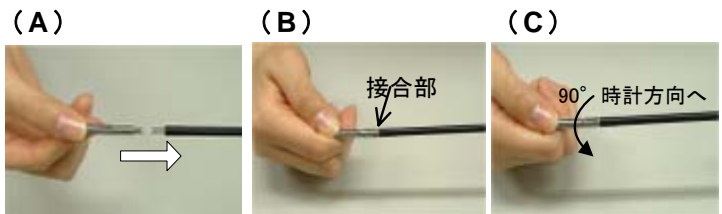
* 2/3/3.5mm φ 径の器具はアウターチューブとインサートが一体化されています。

【組立方法】

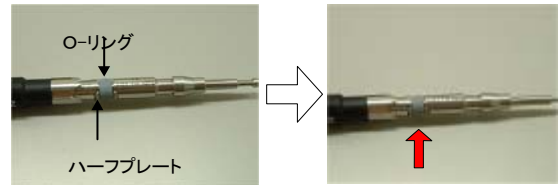
1) インサートとアウターチューブの組立

インサートをアウターチューブに挿入します。(A)

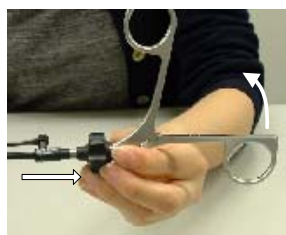
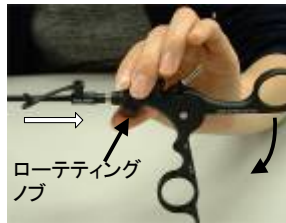
インサート先端を 1/4 回転させてアウターチューブ
接合部に固定します。(B)/(C)



インサートがアウターチューブに固定される際(右図(C)を行った時)、
アウターチューブのOリングとハーフプレートが内側(赤い矢印)に
向かって微動することが確認できます。



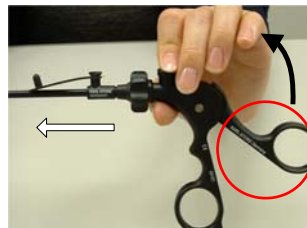
2) ハンドルの取り付け



ハンドルを全開状態にしなが、可動部がフリーになるよ
うにローテティングノブだけを把持してアウターチューブを
押し込みます。確実に固定されると、カチッというクリック
音とともに、ハンドル可動部が押し下げられます。

金属ハンドルは左図のように逆さまにして全開状態にし、
同様に挿入してください。
ハンドルの可動部が持ち上がりロックされます。

【分解方法】 基本的には組立方法の逆を行います。ハンドルの可動部をフリーにした状態でリリースボタンを
押しシャフトを抜き取ります。その際、可動部(下図○部)が上に跳ね上がります。



注: この可動部に指を掛けたり押さえたりした状態ではシャフトを抜き取る事は出来ません。

尚、金属ハンドルの場合には、組み立てる時と同様に逆向きにして、リリースボタンを押しシャフトを抜き取ってください。

術後は、必ず分解して速やかに洗浄を行ってください。

また、インサートの先端ジョイント部には、洗浄後、定期的にシリコンオイル(K27656B)の塗布を行ってください。

【作動チェック】 組み立て完了後、及び術前に必ず作動チェックをして、器具の安全性をご確認下さい。



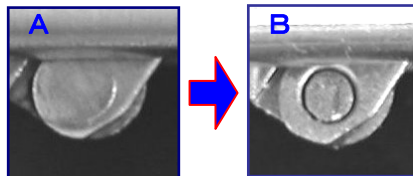
- ① 先端ジョウにぐらつきやひび、不具合はありませんか？ ⇒ **Note-1**
- ② アウターチューブ外装にひび・欠損などはありませんか？
- ③ ハンドルチェック 動きはスムーズですか？ ⇒ **Note-2**
- ④ インサートを引っ張っても抜けませんか？ ⇒ **Note-3**

● **Note-1** 先端のチェック **重要!**

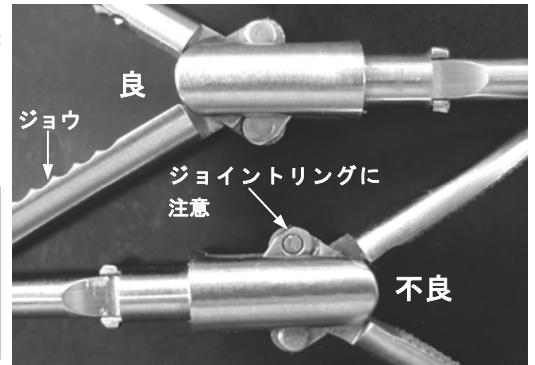
インサートの先端は、非常にデリケートに出来ています。

次の場合には使用を中止して、新しいインサートに交換してください。

- ① ジョウにぐらつきや欠損などがある場合
- ② ジョイントリングおよびその輪郭が明らかに黒く浮き出ている場合
(蝶番のリベット部分がA→Bになった)



ジョイントリングチェック:



注：正常状態でも過度の力を掛け過ぎると先端部の破損脱落の原因になります。

術前を含め術中のチェックもお願いします。

両開き鉗子のインサートは1年若しくは30回の使用で交換してください。(添付文書参照)

● **Note-2** ハンドルチェック

- ① ローテータリングノブを反時計方向に回転させ緩みや外れが無い確認します。
- ② リリースボタンの可動及び電極コード接続ピンに歪みが無い確認します。
- ③ 表面にひび割れ等のクラックは、無い確認します。

上記項目に該当する場合には、新しいハンドルと交換してお使いください。

● **Note-3** インサートの引き抜きテスト



組み立てが完了した状態で、アウターチューブのローテータリングノブを把持しインサート先端を反時計回りに回転させながら引き抜くような負荷をかけます。また、ハンドルを動かしながら、同様のチェックを行います。



このとき、左図のように先端が抜ける場合、下記対応が必要です。

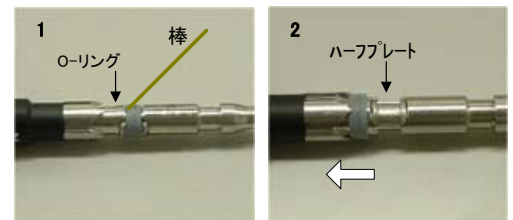
- ① アウターチューブ内のハーフプレートが磨耗している ⇒ ハーフプレートの交換
- ② アウターチューブ先端接合部(ロック)不良 ⇒ アウターチューブ交換
- ③ リリースボタン不良 ⇒ ハンドル交換

◇ ハーフプレートの交換

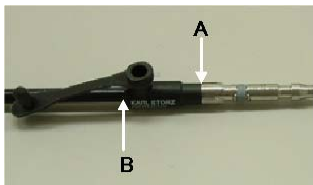
1. Oリングを細い棒で持上げの 2. 矢印方向へずらして、下のハーフプレートを交換してください。(交換した後、再度上記チェックを行います。)

尚、Oリングにひび割れ等がある場合には、同時に交換してください。

(ハーフプレートの内側に磨耗痕があるものは不良です。)



● その他のチェック



左図アウターチューブの A 部および B 部の付け根に緩みがない事を確認します。

この部分に緩みがある場合や絶縁被膜に剥がれやめくれがある場合には使用を中止し、アウターチューブを交換してください。

STORZ
KARL STORZ — ENDOSKOPE

カールストルツ・エンドスコピー・ジャパン株式会社
〒113-0033 東京都文京区本郷3-42-5 ポア本郷ビル6F
TEL 03(5802)3966 FAX 03(5802)3988
e-mail: info@karlstorz.co.jp.
http://www.karlstorz.com.

輸入・総販売元:



エム・シー・メディカル株式会社

本社/東京支店	〒160-8355 東京都新宿区西新宿7-5-25 西新宿木村屋ビル	TEL 03(5330)7860(代)	FAX 03(5330)7867
大阪支店	〒542-0081 大阪市中央区南船場2-1-10 船場モンブランビル	TEL 06(6271)7855(代)	FAX 06(6271)1012
九州支店	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東3-13-21 エフビル2F	TEL 092(476)0833(代)	FAX 092(476)0832
名古屋営業所	〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-17-6 ナカトウ丸の内ビル7F	TEL 052(962)7855(代)	FAX 052(962)1571
札幌営業所	〒060-0001 札幌市中央区北一条西13-4 タケダ札幌ビル5F	TEL 011(281)7855(代)	FAX 011(281)6344
仙台営業所	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-2 SK小田急ビル2F	TEL 022(215)3390(代)	FAX 022(215)3399
広島営業所	〒732-0052 広島市東区光町1-9-2 第4寺岡ビル4F	TEL 082(567)7861(代)	FAX 082(567)7862